

石川市史

題字 伊波良幸

目次

発刊の辞 市長 平川 崇

第一編 序説

石川市の自然 2

一、あけもどろの咲い渡る街 2

二、ありし日の石川市の自然 5

三、移れば変わる（誰か故郷を思わざる） 7

四、石川の語源 8

第二編 石川の歩み

第一章 先史時代 12

第一節 伊波貝塚その他の遺跡 12

一、伊波貝塚 12

二、古我知原貝塚 20

三、伊波後原遺跡 21

四、石川貝塚 21

五、東恩納後原丘陵遺物散布地 22

六、美原遺跡 22

七、タカビラ原遺跡 22
 八、伊波城趾 22

第二節 貝塚人の渡来 31

第三節 貝塚人の生活 34

第二章 部落時代 37

第一節 部落の発生 37

第二節 部落時代の生活 39

第三章 按司時代 42

第一節 按司の発生 42

第二節 按司時代の石川市 43

(1) 伊波按司の治政 43

(2) 伊波按司系統の支配 44

(3) 伊波按司系統図 46

(4) 伊波按司略系図（今帰仁由来記） 50

第四章 歴代王統記 66

第五章 所管の変遷 101

第一節 間切時代 101

第二節 県政時代 107

第三節 米軍占領時代 120

第四節 歴代市長 125

第六章 部落各説 133

第一節 字石川 134

第二節 字伊波 134

第三節 字嘉手苺 192

第四節 字山城 220

第五節	字東恩納	230
第六節	字楚南	243
第七節	前原区	249
第八節	美原区	250

第三編 王朝時代の農民の生活

第一章	身分制度	253
第一節	身分の種類	253
第二節	身分と居住地域	255
第三節	系図	258
第四節	身分による諸種の制度	261
第二章	税制	264
第一節	沿革大要	264
第二節	税(貢租)の種類	266
第三章	土地制度	270
第一節	土地所有の形態	270
第二節	地割制度	273
第三節	土地整理	276
第四章	日常生活の変遷	278
第一節	衣生活	278
第二節	食生活	279
第三節	住居	283
第五章	社会生活の変遷	286
第一節	通過儀礼	286
第二節	年中行事(旧暦)	295

第四編 教育・文化

第一章	教育	308
第一節	王朝時代の教育	308
第二節	県政時代の教育	315
第三節	戦争と教育	325
第一項	軍靴の音	325
第二項	石川学園の記録	341
第三項	アメリカ統治と教育	344
第四項	教育委員会	352
第五項	学校保護	358
第四節	石川市の学校教育	369
第五節	市内各学校の沿革とプロフィール	370
第一項	城前小学校	417
第二項	宮森小学校	417
第三項	伊波小学校	434
第四項	石川中学校	443
第五項	伊波中学校	472
第六項	石川高等学校	481
第七項	石川実業高等学校	497
第八項	国立沖縄海員学校	506
第九項	沖縄県警察学校	513
第六節	幼稚園	515
第一項	石川市立城前幼稚園	515
第二項	石川市立宮森幼稚園	520
第三項	石川市立伊波幼稚園	526
第二章	社会教育	530

はじめに、社会教育の基本理念及び位置	531
第一節 社会教育委員	534
第一項 中央公民館	540
第二節 社会教育育成団体	545
第一項 石川市婦人会連合会	545
第二項 石川市子ども会育成連絡協議会	553
第三項 石川市老人クラブ連合会	559
第四項 石川市の体育	568
第三節 沖縄県立石川少年自然の家	574
第四節 石川市文化財保護委員会	594
第一項 石川市指定文化財	599
一、東恩納平良家所蔵葬祭具並び民俗資料	599
二、伊波の金細工の鍛冶道具	609
三、嘉手苅観音堂	618
四、嘉手苅御拝領井	624
五、伊波のメンサー（個人指定）	625
第二項 石川市歴史民俗資料館	625
一、歴史民俗資料館協議会委員	627
二、石川歴史民俗資料館収蔵品点数	628
三、石川市立歴史民俗資料館設置管理条例	629
四、石川市の文化財一覧	634
第三章 石川市の伝統文化財	640
一、金細工（雑踊・舞踏曲）	642
二、無形文化財、伊波の京太郎	646
三、臼太鼓（ウシデーク）	667

第五編 産業

第一章 農業	670
第一節 農業の変遷	674
第二節 石川市の農業の現況	681
第三節 稲作	682
第四節 甘蔗作	688
第五節 パインアップル	690
第六節 ミカン	695
第七節 蔬菜園芸	696
第八節 花井産業	699
第九節 茶業	701
第十節 畜産	704
第十一節 農業機関の変遷	706
第十二節 石川市農業委員会	706
第十三節 農業協同組合	706
一、石川農業協同組合	707
二、伊波農業協同組合	717
第二章 商工業	720
第一節 商業	721
第二節 工業	726
第三節 石川市商工会	730
第四節 石川市商工業の沿革	733
第五節 石川市の目玉工業	737
一、石川火力発電所	740
二、石川石炭火力発電所	740
第六節 今後育成すべき工業	740

第三章 水産業

742

第六編 衛生

第一章 琉球王朝時代の医療
第二章 明治、大正時代の医療
第三章 沖繩医生教習所
第四章 石川市の医療
第一節 医院の出張所
第五章 終戦と現代と医療
第一節 医師の自由開業
第二節 石川市内の開業医
第六章 環境衛生
第一節 戦争と伝染病
第二節 石川保健所
第七章 水道
第一節 上水道
第二節 下水道
第三節 環境衛生
第四節 石川市健康づくり推進協議会

773 769 764 763 763 755 754 754 753 753 752 751 750 749 748 746

第七編 交通・通信

第一章 道路
第一節 徒歩時代
第二節 馬車時代
第三節 自動車時代
第四節 戦後の道路事情

793 792 791 790 790

第二章 通信

794

第八編 移民

第一章 移民と沖繩
第一節 移民今昔
第二節 海外移民
第二章 石川市と移民
第一節 海外移民
第二節 外地移民
第三章 石川部落移民史

814 812 808 808 807 804 804

第九編 大東亜戦争と石川市

第一章 島ちやび
第二章 島のあけぼの
第一節 諮詢会と石川
第二節 石川市草分記 横田 英
第三節 終戦当時の市民生活
第四節 諮詢会の行政録
第三章 警察
第一節 警察制度(戦前)
第二節 戦後の警察
第三節 石川警察署
第四章 消防
第一節 消防の任務
第二節 沿革
第五章 余論(区長会記録)

908 898 897 897 889 886 883 883 880 872 864 833 833 826

記録簿

910

第十編 石川の今昔

・アメリカ世への胎動 比嘉 喜八

・総務課長時代を顧みて 棚原 勇吉

・世の中の変遷ぶりに驚く 伊波 一郎

・随想 平良文太郎

・ハイティーンの目に映じた郷里の断片

山城 正雄

・思い出 石川 朝子

・回想記 第七・八代市長 石川 長栄

・石川に住みて 当間 恵喜

・回想 新城 紀秀

・教育随想 宮城 邦男

・わが市石川 伊波 信光

1106

1104

1101

1100

1096

1094

1089

1084

1082

1076

1070

付録・年代表

石川市史

昭和六十三年三月二十五日 印刷
昭和六十三年三月三十一日 発行

編集執筆者 伊波 信光

発行者 石川市長 平川 崇

発行所 石川市石崎一丁目一番

石川市役所

印刷 光文堂印刷株式会社

南風原町字兼城五七七番地

電話（〇九八八）八九一一二二二